

## コップの中のクリスマスの奇跡

メトロのクリスマスで最も重要なことは、子どもたち一人一人に、彼らを愛し、彼らの置かれている状況をはるかに超える偉大な神様、彼らが泣いている時、その泣き声を聞き、祈りに答えてくださる神様がおられることを伝え、その神様がいつも彼らを見ているということ、目に見える形で実感できるよう手助けすることです。あなたは、希望を持ってない子どもたちに、誰かが気にかけてくれていることを教えてくださいました。

ケニアでは、小学校で行われたオペレーション・ホリデー・ホープのクリスマスのお祝いで、幼いベンが、一杯のジュースとクッキーの袋をもらって、大変驚いていました。1日1回食事ができるかどうかかわからない生活をしている子どもたちにとって、そんな贅沢なおやつは、とても珍しいのです。

他の子どもたちはすぐにおやつを楽しみながら食べ始めましたが、ベンは手に持ったジュースの入ったコップを、ただ不思議そうに見つめていました。ベンとその他の子どもたち全員が、見たこともない人々がわざわざクリスマスの希望を贈ってくれたことを知り、自分は覚えられていて、愛されていると感じました。

世界中の子どもたちの心にクリスマスの本当の意味とイエス様の愛を伝える  
メトロの働きを支援してくださってありがとう！



どうか、望みの神が、  
あなたがたを信仰による  
すべての喜びと平和をもって満たし、  
聖霊の力によって  
望みにあふれさせて  
くださいますように。

ローマ 15:13



**OHH は引き続き受け付け中**

<https://metroworldchild.jp/ohh-usph-ch/>



**今月の引き落とし日！**

**12月27日(水)です。**

### 今月号の目次

P2～5…ビル師からのガザ地区支援活動報告

P5…クリスマスのお礼と OHH のお願い

P6…日本事務所からの重要なお知らせ

# ガザ地区からの活動報告

ビル・ウィルソン師のフェイスブックですすでにご存知の方々もいらっしゃると思いますが、ガザ地区での支援状況について、まとめてお伝えします。

## 思った通り、ハマスがやってきた

11月5日にメトロのガザ地区で起きたことをどう説明すべきでしょうか。良い方法は思いつきませんが…。

アンドリュー(メトロのイスラエル人スタッフ)は、日曜学校の子どもたちのためにもっと多くのパンを作ってもらうために、イスラエル人のパン職人をさらに2人雇いました。大変な作業でしたが、最終的には、2,000個近くのパンを作ることができました。彼らは、それまで2回の日曜日の正午に開催された日曜学校の後、子どもたちに食事が配られたという噂が、ジャバリア難民キャンプで広がっていることを知っていました。それで、今週末は厳しい状況になるだろうということは、予想できました。

私はいつもと同じように11/4土曜の朝、ニューヨークでバスを運転してメトロの教会学校に子どもたちを迎えに行き、室内での教会学校を行った後、最終便で別の都市に飛び、日曜の朝には教会で説教していました。その中でも、ガザの状況を知らせるアンドリューからの電話を緊張しながら待ちました。日曜日の午後5時、その日の最後の集会に向かう直前に、ようやく彼からの電話がかかってきました。

彼の話によると、明らかに彼らの活動場所が密告されていて5人のハマスの偵察隊がやって来たため、11/5(日)メトロのチームはいつものように正午に日曜学校を始めることができなかったようです。偵察隊が来た時、奉仕者の母親のひとりが、準備していた食料と水を毛布で隠しましたが、彼らはそれを見つけて盗もうとしました。母親のひとりとはこうなるのを予測していたようで、すぐに服の下からナイフを取り出し、ハマスの戦闘員のひとりの首を刺したのです。それで周りの人々が叫び始め、他の2人の兵士がAK47ライフル銃を取り出して母親を撃ったのですが、そのうちの1発が、未就学児の足のちょうど膝に命中してしまいました。その女の子は、た

だレンガの「椅子」に座って日曜学校が始まるのを待っていたのです。

その瞬間、2人の父親が後ろからやって来て銃を取り出し、ハマスの銃撃犯2人を撃ち殺したのです。残りの2人はそのまま逃げてしまいました。完全に混乱状態でした。

映画みたいですか？ そうですよ。しかし、それがこの人々が毎日向き合っている状況です。これらの母親や父親は、ただ子どもたちに生きていてほしいだけであり、世界中の親と同様に、そのためなら何でもします。そしてその状況は、日に日に厳しさを増しています。

結局、3人のテロリストの死体が群衆の後ろに放置されたまま、午後2時にメトロの日曜学校が始まりました。集会後、参加した子どもたちに食料と水を配るのに約1時間かかりました。その日の日曜学校には、2,019人の子どもたちが参加していたので、パンは少し足りませんでした。改めて、あなたの祈りと助けに感謝します。正直、その日曜日の予定がどうなったのかはわかりませんでした。しかし、少なくとも福音が語られ、数日間何も食べていなかった子どもたちに食べ物を与えられ、イエスの御名が、彼らの心を明るくしたのです。

ジャバリア難民キャンプへのミサイル攻撃についてニュースでご覧になったかもしれませんが、日曜学校を行っている地域には落ちませんでしたが、それほど遠くない場所でした。日曜日にこのような事態が起きたので、チームはどこで次の日曜学校を行うか、そもそもできるのかさえ分からなくなってしまいました。ハマスは、私たちが日曜日にそこで日曜学校を開き、子どもたちに食事を配っていることを知っています。次は何が起こるでしょう？ 答えにくい質問です。

私たちはこれらの人々を主のもとに導くために最善を尽くしており、それはうまくいっています。次の日曜日に備えて難民キャンプに食料と水を運ぶ作業も続けています。私たちはこれからも、活動できれば、できるだけ多くの人に食糧を配ります。私たちのチームは、これらの子どもたちを助けるために命がけで取り組んでいます。諦めることはありませんし、それは皆さんもご存知のはずです。明日のことはわかりませんが、誰が明日を握っているかは知っています。そして私たちは、これらの子どもたち一人ひとりの手を握っているのが誰であるかを知っています。私たちのチームは力を保っています。働きを共にしていただきありがとうございます。

## 忠実+感謝の心=日曜学校の参加者 1,227人

5日の状況では、11/12(日)に日曜学校を開くかどうか非常に危ぶまれました。また、19歳の奉仕者のヘレブにとっては、とても辛く大変な1週間でした。多くの人々がガザ北部から南部へ非難しなければならなくなったことをご存知だと思います。ヘレブの母親は、彼の弟が病気だったので、2人でアル・シファ病院に行こうとしていました。悲しいことに2人が病院にたどり着く直前に、すぐそばで建物が倒壊し、2人



の命が奪われてしまいました。そのためヘレブは、もう一人の弟を、ガザ地区南部に避難している親族の元に連れて行かなければなりませんでした。

それで、私たちのパレスチナ人チームで残っているのは2名の奉仕者だけになりました。彼らの使命感は、人間的感情に勝ってなければなりません。ハンとダイアーは当初のビジョンに忠実でありたいと願い、最後まで残る決断をしました。ここには虚構のドラマはなく、ただ事実があるだけです。

この時点では、人々が避難できるように、毎日午前10時から午後2時まで戦闘が一時停止されていたので、メロクのチームは午前10時から日曜学校を行い、食料を配りました。彼らの忠実さと感謝の心のおかげで、1,227人の子どもたちが難民キャンプの日曜学校に来て、パンと水を手にしました。私たちは、できるだけ多くの命を救おうとしています。そうです、私たちが優先するのは、神の言葉を宣べ伝え、手遅れになる前にキリストを受け入れる機会を与えることです。あなたも私も思いは同じです。

メロクのパレスチナチームはパレスチナ側にいて、イスラエル側からは、アンドリューができる限りのことをしようとしていましたが、子どもたちとその親の生活のために犠牲を払い、ご支援くださる世界中の方々のおかげでそれが可能になりました。私たちが福音を伝えようとしていた人々のほとんどは、福音の本当の意味をこれまで聞く機会がなかったのです。ですから、忠実さと感謝の心が合わさることで、すべてが可能になったのです。皆さんからのご支援とお祈りは、私とガザのチームにとって、予想以上のものでした。特別な宣伝を行っていないにもかかわらず、多くの皆さんがご支援を申し出てくださいました。Facebookでの投稿を読み、フォローするよう友だちに勧めてくださって祈り続けてくださり、子どもや親たちがキリストの福音を聞くために徹夜祈禱を開催してくださった方もいます。メロクのチームは、いつこれが終わるかもしれないので、この重要な時期に奉仕できることにただただ感謝しています。

現地では、いつ何が起こるかはわかりませんが、チームは希望を失っていません。事実、彼らの信仰はますます強くなっています。彼らの主への信仰と世界中の人々の信仰が、彼らが戦場と化した場でも戦い続ける力になりました。なぜなら、彼らは血肉に対してではなく、非常に強い霊的な力に対して戦っていることを実感しているからです。ですから、彼らの信仰が強まるにつれて、そして、彼らの信仰に応じて、私たち全員の信仰も強くなっています。次の日曜日に向けて準備を進めるので、直接お伝えしたかったのです。下さなければならない重要な決定がいくつかあります。多くを与えられた者は、多く求められるという感じです。これ以上できないというところまで続けます。非常に多くの方々を祈り、犠牲を払い重荷を負って、私と現地の奉仕者チームと共にこの道のりを歩いてくださっていることに感謝しています。

### ついにガザ地区へーメロクスタッフより

多くの方々が予想していた通り、ビル牧師は11月18日にガザ地区へ向かいました。ご存知かもしれませんが、現地の



状況は日に日にひどくなっています。それでもメロクチームは諦めず、パレスチナの子どもたちの命と魂のために今も戦い続けています。この数週間、彼らがビル牧師に何度も言ってきたように、次世代が希望を持つ唯一の方法は、イエス・キリストを通してだけなのです。イエスこそが唯一の希望です。そして、私たちのチームはそれを知っています。

ご存じの通り、ビル牧師は常に先頭に立ち、どこにいてもためらうことなくチームと共に戦います。それが彼のやり方です。彼は、「ノー」と言ったことはありません。そしてもちろん、彼は「ノー」という答えも受け入れません。現地では、非常に難しい決断を下さなければならない局面があり、ビル師が実際にその場に行き、自分の目で状況を見て、チームと会って次の手を見つけるしかありません。彼はメディアの報道やインターネットの写真をそのまま鵜呑みにしたことはありません。そのために、現地に赴きました。

実際に現場に行くと、現実には、TikTok や流行りのメディアだけを見ている人々が抱いている認識からは、かけ離れていることが多いことに気付くでしょう。ですから、彼の安全と健康、そして、確かな識別力を持つことができるよう祈ってください。現地のメロクチームと、関わってきたパレスチナの子どもたちのため続けてお祈りください。今は間違いなく、祈る時です。

### 嵐の中での日曜学校

ビル師は到着後、アンドリューの家に泊まり、日曜学校のためにパン屋にパンを受け取りに行きました。小型トラックに乗って国境まで支援物資を運び、キャンプで働いているパレスチナ人スタッフに食料を渡すことができました。

11/20(日)、ガザ地区は激しい暴風雨になり、秒速14~17mの強風が吹いていましたので、日曜学校の開始が遅れました。結局、雨の中で午後3時頃に開始しました。福音を伝え、日曜学校の終わりに食べ物を配ります。子どもも親も多くの人が、私たちがそれまで配ってきた食料の空き瓶や空き缶を持って来て、パンを食べながら雨水を溜めて飲んでいました。信じられない光景で、説明するのも難しいことです。子どもたちにとっても、世界全体にとっても、困難な時です。

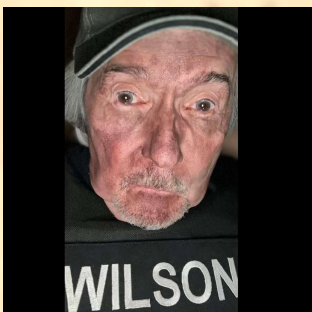
この日、日曜学校に来た子どもは723人でした。多くの子ども

もが、家族と共に南部に避難しているため、明らかにそれまでの週よりも人数は減っていました。早朝に、難民キャンプの少し北にあるペイトラヒアの学校で爆発が起きたため、その地域から来ていた子どもたちの中には参加できなかった子がいました…それは全体の状況のほんの一部の出来事です。それで今、人々の心にさらに恐怖が広がっています。

ビル師とアンドリューは車でイスラエルのレバノン国境まで行って、現地の子どものニーズを確認しました。ロケット弾攻撃や小火器による発砲がレバノンからイスラエルに向けてなされています。いつも同じですが、戦争を引き起こすのは子どもたちではありませんが、結局、最も苦しむのは子どもたちです。

アンドリューは、喜んで協力してくれる人たちがいるから、イスラエルの子どもたちに日曜学校をやってもいいかもしれないと話していました。話しながらレバノン国境付近に車で向かっていると、何者かが車に向けて発砲してきました。皆さんの祈りのおかげで、ビル牧師とアンドリューはすぐにその場から抜け出し、安全な地域に移動できました。

改めて、ビル牧師、メロチーム、そしてもちろん子どもたちのために祈ってくださった世界中の皆さんと、私たちと連携し支援を行ってくださっている教会の皆様、心より感謝申し上げます。この霊的、肉的な戦いを戦うために、あなたのご祈りが非常に重要で不可欠であることを知っていただければ幸いです。そして、ビル牧師が言うように、「あなたのご想像以上に、感謝しています」。



### 現地から

21日の夜、メロの奉仕者と会うために、ガザに戻りました。北の国境検問を通過する際に、私が携帯電話の電源を切る前に、自分の写真を撮るようとイスラエル兵士たちが言いました。「これは、うまくい

かなかった場合に、ニューヨークの人々があなたを識別できるようにするためであり、米国の緊急連絡先に送る写真で、手続き上のことです」。ホテルで会った米兵からもらった迷彩ペイントが私の顔に塗られました。彼は、私は白くて目立ちすぎるので、すぐに標的になるだろうと言いました。これは、その時撮った写真です。

国境を越え、ハンとダイアーと私は2人の兵士と共に、爆破された建物の隅に身を隠しました。私たちは、子どもたちにイエス・キリストのクリスマスのお話しをして、より多くのパンと水を届けるために、少なくともあと2週間日曜学校を続ける方法を検討していました。現地の状況は明らかにテレビの報道よりもひどく、最悪の状況になってきていました。

メロの2人の奉仕者は、本当に感謝しています。彼らは世界中からの助けと祈りにとっても感謝しています。「あなたのこと」です。そのおかげで、彼らは戦争の最中でも日曜学校を続け、子どもたちに食事を与えることができるのです。彼らは、この8年間、私が彼らを訓練し、指導し、彼らを信じ続けたこ

とに感謝していました。

私たちがその爆撃された建物から出ようとしていた時、左側に何かが見えました。暗闇の中で何か動いていました。時間が経過していたので、兵士たちは私を早く連れ出そうとしました。しかし、私は彼らに「ちょっと待ってほしい」と言いました。そこに何かあるのか見てみたかったです。

私はハンとダイアーと一緒にゆっくりと歩いて行ってもらい、小さな女の子が暗闇の中で壊れたレンガの上に座っているのを見つけました。彼女は体を前後に揺さぶっていて、何も言いませんでした。私はただ彼女を抱き上げて両腕に抱きしめました。私はハンに、彼女の名前を教えてくださいように頼みました。彼女はただアラビア語で、「わからない、わからない」と言い続け、そして、「迷子になった、迷子になった」と繰り返していました。壊れたレンガや廃墟の中を、どれくらいの間歩いていたのわかりません。彼女の足を触ると、血だらけだと感じました。彼女の額には大きな傷がありました。

私はイスラエルの兵士たちに、彼女を連れて帰って面倒を見ると言いましたが、彼らは、「彼女を連れて国境を越えることはできない」と言いました。それでも私は、「彼女を連れて行く！」と言い張りましたが、兵士たちの答えは変わりません。ハンは私を見て、「心配しないでくださいビル先生。私たちが彼女の世話をします」と言ってくれました。私はハンにこう伝えるように頼みました。「もう迷子じゃないよ。私たちがきみを見つけたよ、お嬢ちゃん。イエス様はきみの名前も、きみが誰かも知ってるから」。私はハンに、彼が彼女の面倒を見てくれると彼女に伝えるように言いました。私は彼女の小さな顔を見て、ハンに、「きみに名前を付けよう。新しい名前はメアリーだよ」と伝えてもらいました。なぜそんなことを言ったのかはわかりませんが、誰かが気にかけてくれていて、彼女の名前を覚えているということを理解できるように、彼女に名前を記憶してもらう必要があったのです。私はハンに、「ビル牧師も世界中の人々も毎日きみのために祈ってくれます。イエス様がきみの面倒を見てくれるよ」と伝えてもらいました。私はただ泣いていました。それが私にできるすべてでした。

兵士たちは、「もう行かなければならない」と言い、ハンは小さなメアリーを私の腕から抱き上げてこう言いました。「ビル先生、私たちならできますよ。私たちが彼女の世話をします」。もう行かなければならないことはわかっていたましたが、動けませんでした。しかし、それでも行かなければならないこともわかっていたました。

私が出口に向かって歩き始めたとき、ハンとダイアーはこう言いました。「ビル先生、私たちがこの子どもたちを教えるのを助けてくれてありがとう。私たちが変化をもたらすことができることを教えてくれてありがとう」。そして、ハンとダイアーがヘブライ語で、何年も耳にしなかった言葉を言いました。「イエシュア・ハマシア」。パレスチナ人の彼らが、ヘブライ語を話すのは奇妙に聞こえました。私には、その意味がわかりました。それは、「イエスは救い主」という意味です。意味を覚えていたことに驚きましたが、どうして忘れられるでしょう。

「イエス様が本当に神の子であり、私たちの救い主であるこ

# Mary HAD A Christmas BREAD IN SUNDAY SCHOOL



とを教えていただき、ありがとうございます。だから、イエス様は私たちの救い主でもあります。ありがとう。私は答えました。「シャローム…きみたち2人に平安がありますように。そして今、世界中の人々がきみたちのために祈っています」。

11月22日の真夜中、日曜日に教会で説教するためにカリフォルニアへ向かう飛行機をテルアビブ空港で待っていました。今は状況がわからないので、週末がどうなるかはわかりません。しかし、私が捨てられて街角に座っていた時と同じように、この時代の子どもたち、暗闇の中に座っている小さな女の子を守るために立ち上がってくださってありがとう。彼女は一度は失われていましたが、今は見つけれられました。自分が見つけれられた時に抱いた感覚を私は今でも覚えています。

11月26日の日曜日、あまり眠れないまま朝を迎え、親友が牧師をしている長年協力してきた北カリフォルニアにある教会で説教を準備していました。メアリーを置いて去らなければならなかった事実は、昼も夜も私を苦しめています。携帯電話の電源を入れると、アンドリューから電話がかかってきて、メアリーも他の844人の子どもたちと一緒に日曜学校に参加したということでした。私たちのチームがまだそこでやり続ける意欲と力があることに驚きました。

ハン、ダイアー、そして数人の母親たちが爆破された地域を片付け、日曜学校を開催しました。子どもたちに教えたのは、「イエスは飼い葉桶の中で誕生された」という話でした。そこに多くの子どもたちや親たちは、キリストの誕生の話を実際に聞いたことがなかったのです。神様は彼らをととても愛して、彼らのためにひとり子をお与えになりました、と。すべての言葉が彼らの心に残りました。

アンドリューは、パン屋に、クリスマスのお祝いをする子どもたちのために、イスラエルの甘いクリーム入りの特別なパンを作ってもらい、メアリーはそれをとても気に入ったそうです。

私と世界中のすべてのメトロチームの活動を支えてくださり感謝します。私たちがあなたの宣教師であり続けることを可能にいただき、ありがとうございます。

また、ご報告します。感謝を込めて、メリークリスマス!!

下記のサイトからご支援いただけます。⇒

<https://metroworldchild.jp/offering/>



## だれも見捨てないクリスマス！



### 皆様のご支援に心から感謝します！

多くの皆様が、ご自分の支援しておられる子どもにクリスマスのプレゼントをお送りくださり、OHH(オペレーション ホリデー ホープ)にもご支援くださいましたことを心から感謝しています。

### ご支援は引き続き受け付けています。

皆様のご支援とお祈りにより、メトロの働きは拡大し続け、支援できる国も地域も学校も次々と門戸が開かれています。長年にわたるビル師の働きの中でも類を見ない勢いで福音を伝えるチャンスが与えられています。

そのため、今年の当初の目標は45万人の子どもに救い主イエス様の到来の物語と共にプレゼントを渡すことでしたが、11月12日の週にメトロの教会学校に参加した子ども数は51万7千人を超えていました。クリスマスの週には、さらに多くの子どもたちが参加することが予想されます。闇の広がるこの時代に、まさに主ご自身が働いておられると実感させられます。

そのため、OHHのご支援は、引き続き受け付けておりますので、心に示される方がいらっしゃいましたら、ぜひご支援をお願いいたします。

<https://metroworldchild.jp/ohh-usph-ch/>



## 日本事務所からの重要なお知らせとお願い

### クリスマスカードの購入を！

毎年クリスマスカードをお送りくださっていることに感謝申し上げます。実は、現地に届くまでには結構な時間がかかりますし、子どもたちの数も大変多く、年度末の休みに入る国もありますので早めにお送りくださると助かります。

ケニア宛は8月、フィリピン宛は9月、アメリカ宛は10月中に日本事務所に届くようにお送りいただくとクリスマスまでに渡すことができると思います。

その時期には日本でクリスマスカードを手に入れるのはとても難しいと思いますので、今の時期に来年用のカードも買っておいていただくことをお勧めします。どうぞよろしくお願いいたします。

### ビル師セミナー変更！

来年3月の日本でのセミナーが日程変更されることになりました。ビル先生のスケジュールと日本の皆様の動きを考え併せて、もう一度日程を調整してご連絡申し上げます。

お申し出くださっていた方々もいらっしゃいましたので、大変申し訳ございませんが、どうぞご了承ください。

皆様には、新たな日程が決まり次第ご連絡申し上げます。

世界情勢が大変不安定で、ビル先生やメトロへの支援の依頼も増え続けています。どうぞ子どもたちやスタッフの安全と健康が守られるように、そして何よりも、子どもたちの魂の救いのためにお祈りください。

### ！ 違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしく願いいたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを発案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



### 日本事務所よりごあいさつ！

いよいよクリスマス時期となりました。年末も近づき、あわただしい日々を過ごしておられる皆様もいらっしゃるでしょう。健康が守られ、日々の生活にも余裕が生まれますように。そして何よりも、救い主の到来をお祝いすることができますようにとお祈りします。

クリスマスのプレゼントやガザ地区での働きのための献金をお送りくださった皆様、ありがとうございます。多くの方々のお祈りとご支援に支えられ、ガザ地区での働きも継続でき、ビル師の命も守られています。私たちの日常とはかけ離れた、衝撃的な内容に心が痛みますが、日本でも暗闇の力が広がっています。どうしても真の光であるイエス・キリストの救いと平安がすべての人々に必要です。

皆様の心に主、イエス・キリストからの平安が満ち溢れ、幸せなクリスマスを迎えることができますようにとお祈り申し上げます。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



## メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6

橋ビルII 7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>

注意！  
昨年9月に  
移転しました



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン